

大支援研ニュース

特別支援教育

平成22年11月18日発行
大阪府支援教育研究会
会長 左近 洋二
(枚方市立香里小学校長)

12月号の発行
は12月中旬
予定です。

<http://daishienken.visithp.com/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

今後の役員総会予定 本部役員、支部役員の方はご予約ください。_

平成23年1月13日(木)午後3時～5時 アウイーナ大阪 3階 信貴の間

以下の 研修会は無事終了しました。

実技研修会 平成22年8月9日(月) 象の会 (内藤・松永・朝井 各先生) **報告添付**

大支援研 ICT活用プロジェクト夏期講座 平成22年8月17日(火)・18日(水)

施設見学研修会 かねでんエルハート 平成22年8月25日(水) **報告添付**

冬季研修会のご案内 (二次案内添付)

<詳細は案内をご覧ください。申し込みは本会ホームページの次のページからできます。>

<http://daishienken.visithp.com/annai/touki2010mousi.html>

(冬季研修会、説明と申し込みのページ)

平成23年(2011年)1月22日(土) 午前10時30分～午後4時(10時 受付開始)

於 たかつガーデン

午前の部

- (A) 自閉症の理解と支援のあり方 (室田澄江氏)
- (B) 発達障がいの子どものつつむクラスづくり (松久眞実氏)
- (C) 子どもの性を考える (大橋一予氏、中野智恵氏、中村昭代氏)

午後の部

- (D) 高次脳機能障がいについて (栗村由喜江氏、西野朋子氏)
- (E) スクールカウンセラーから見た支援教育 (長田道氏)
- (F) 発達障がいのある人への「安心と自尊心」にもとづく学習支援 (井川百々代氏)
- (G) バーチャルAD/HD (熊野健司氏)

大阪府教育委員会支援教育課、大阪府教育センター支援教育研究室との懇談会

大阪府教育委員会支援教育課、大阪府教育センター支援教育研究室との懇談会を2月に予定しています。

大阪府支援教育研究会では、研究会団体としての立場を大事にしつつ、大阪府教育委員会、大阪府教育センターと協力し、大阪府の支援教育を進めていきたいと考えており、毎年懇談会を行っています。

各支部から（投稿をお待ちしています。）

中河内支部

東大阪市支援教育研究会が主催する一泊二日の林間学舎が6月15日から、6月24日の間に、生駒山麓ふれあいセンターで5ブロックに分かれて行われました。参加した児童生徒数は241名で、引率者133名と合わせると370名余りの者が校外学習を楽しみました。

詳細記事と写真はこちら <http://daishienken.visithp.com/shibu09/hosakaj0624.html>

記事紹介 お役立ちソフト

なぞりフォントの紹介

今のパソコンでは簡単にきれいな字が好きな大きさで出せるはずなのに、子ども用の「なぞり字」のプリントは、手書きで作るしかありませんでした。これはとても大変な作業です。そういったニーズに応え、「なぞり字」用フォントを大阪府立寝屋川支援学校の横山繁人先生が作成してくださいました。

ネット上のディスクにおいてあり、象の会のホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/> からダウンロードできます。著作権は横山先生にありますが、再配布は自由とのことです。なぞり、書き順、ふくろ文字等、何種類かあります。とても利用価値があると思います。

他団体の研修(他団体が主催の講演会・研修です。問い合わせ等は当該団体に直接お願いします。)

大阪ムーブメント教育研究会 **案内添付**

<http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

平成22年12月18日(土) 13:30~16:30

大阪教育大学附属特別支援学校 体育館 公開子ども教室があります。

日本のムーブメント教育の第一人者である小林芳文先生に直接ご指導をいただけます。貴重な研究会となります。参加費 2,000円

強迫性障害の患者・家族サポートグループ「OCDの会」「市民フォーラム・研修会」

OCDの会 <http://ocdnokai.web.fc2.com/index.htm>

後援 (社)大阪精神科診療所協会

場 所:大阪府社会福祉会館(大阪府中央区谷町7丁目4番15号)

期 日:平成23年1月22日(土)~23日(日)

詳細は上記HPのトップ画面左の「研修会市民フォーラム開催」欄をクリック

2010年 実技研修会 報告

8月9日、アウリーナ大阪において今年の実技研修会を行いました。猛暑の中、今年も多くの方が熱心に参加されました。昨年度まで各教材30人の定員だったのですが、今年は象の会の方が「参加したいという方をお断りすることは避けたい」という思いを出されたので、各教材50人計150人の定員としたところ、136名の多くの方の参加となりました。

午前中は、例年は今まで作られた教材の紹介などをしてもらっていましたが、今年はそれに加えて、「ぜひ、子どもたちと一緒に体を動かしたり楽しんだりできることをやってみましょう」ということで、みんなで一緒に体を動かしてのゲームや遊びを行いました。



しかし、昨年と同じ会場だったため、講師の方の思い(皆で身体を動かして…)とのミスマッチがあり、参加された方に窮屈な思いをさせてしまいました。とはいうものの参加者の多くの方からは「よかった」と言ってもらい、ホッとしています。

午後は、前半3つ、後半3つに分かれての教材作成でした。参加された方みなさん熱心に制作されておられました。別紙にアンケートに書かれたことをまとめてますので、それもあわせてご覧ください。



毎年、参加者の熱気あふれる実技研修ですが、いくつか課題もあり、来年・将来へ向けて考えなければならないことがあります。参加される方にご協力ご理解を求めなければならないこともあるかと思えます。

今年、教材によって参加希望の方の数にかなり偏りがあり、一部の教材は定員を超え、お断りせざるを得なくなりました。以前から参加しているので、作ったことのある教材ではなく、他を… という方がかなり多数おられました。

参加申し込みについては、FAXが便利だという参加者の方が多いようです。しかし、受付を行う事務局にとって申し込み方法が複数に及ぶということの負担が過重となってきました。FAXの送信トラブルも毎年みられます。できれば今後はインターネットのホームページでの申し込み受付を主としたく考えております。ご理解をお願いします。

そして最大の課題があります。象の会の方の実践や思いを、教職員の私たちが、どのように受け止め広げていくか、ということです。象の会の方に教えてもらうだけでなく、教えてもらったことをもとに、新たに実践を作り上げていくことが必要であり、それを交流できるようにしていきたいです。今後、より広がりを持った実技研修会が行えるように考えていきたいです。

2010年 実技研修会

参加された方のアンケートから…

アンケートに多くのことを書いていただき、有難うございました。
今後の参考にさせていただきたいと思います。

準備物について連絡が十分にできていなかったこと、必要量を適切に知らせてほしかったこと等のご意見が多くありました。道具の用意についても同様でした。来年度以降、十分に講師の方と打ち合わせて、適切なお知らせができるよう努めます。

実は、象の会の皆様は、この研修会に向けて非常に多くの時間をかけて準備・ご努力をしてくださっています。参加された方が難しく感じることはないように、作品の製作のかなりの部分を事前に行ってくださいしています。

時には、研修会の直前になって、「こうすればいい」というような工夫を見つけられることもあるようです。その場合、事前の案内文の説明とは異なる場合も生じるかもしれません。できるだけ早く案内文を出したいとは思いますが、講師の方が直前まで工夫をされることには敬意を表したいです。

同時に、材料等についても、より優れた作品、使いやすい作品作りをめざしてのものなので、一般には市販されていないものや入手方法が限定されているものもあります。そのような材料入手のご苦労については感謝の気持ちでいっぱいです。

それゆえに教材作成の費用が、やや高額なものもありましたが、ご理解ください。すべて教材の作成材料の実費のみです。象の会の方が、実費のみしか受け取られず事前準備を入念にしてくださっていること感謝です。

講師の方は、参加者の方が、よりよく教材を作り、活用していけることを願っておられます。その気持ちをこめて、熱心に説明していただき、作品完成まで責任を持ちたい、と考えておられます。そのため、「材料だけほしい、家で作りたい」という要望には基本的に応じておりません。あくまでも象の会の方の熱意ゆえであることご理解ください。

午前の部 今までの教材の紹介、みんなで身体を動かして…

◎ 最初は緊張していましたが、みなさんとゲームをこしていくうちにほぐれてきました。きっとクラス分けしたばかりの子ども達もこんな気持ちなんだろうと改めて思いました。今日したゲームをクラスでもしたいと思いました。

- ◎ 教師としての工夫もさることながら、保護者の気持ちからどうしていくかという視点をも、考えていることに非常に考えさせられました。
- ◎ 全ての教材を見せて頂けただけでなく、子ども達が楽しめるゲームを教えていただいたのでとても参考になりました。早速2学期から取り入れていこうと思います。通常学級の友達とも一緒に楽しめるものだったので嬉しいです。
- ◎ ゲームの取り組み方（どんな子にとっても楽しめるゲームへの参加）の工夫、とても楽しかったです。いく部分かは実際に活用させてもらっている（玉入れ→玉が少ない方が勝ち）ものもあります。子ども達にとって、どの力を使えば楽しめるかというとらえ方を、自分自身が大切にしていきたいと思います。
- ◎ 重度の障害をもつ子ども達と、少しルールが分かる子ども達の両方が楽しめるゲームを教えてくださいました。ありがとうございました。
- ◎ いすとりゲーム、輪くぐり、玉入れ、なかなか思いつかない工夫、しかも友だちが意識できる工夫なので、さっそく取り入れてみたいと思います。
- ◎ 想定外のことが多く、運営される方々が大変だったと思います。アイデアを色々頂き、参考になりました。ありがとうございました。
- ◎ フラフープの実技がよかったです。玉入れでやぶれる、やってもよかったです。
- ◎ たくさんのゲームを実際に動きながらさせてもらって皆さんと一緒に楽しむことができました。「今から何するんだろう？」という子どもが感じるのと同じドキドキ感を体験しました。ぜひ、支援学級の子供達と一緒に、そして通常学級の子供達とも一緒にやってみたいです。
- ◎ 教材の紹介では「当てもの」「てさぐり BOX」など、すぐにでも作ってみようと思っています。玉入れも新聞が破れた瞬間は、「あっ」と感動でした！！壁のあっちとこっち、それと、フープくぐり、やってみます！！楽しい時間でした。
- ◎ ちょっとしたことですが、着眼点がすごく「なるほど」と思えるアイデアが色々あってよかったです。できればレシピなんかがあったらとても嬉しかったですけど…。
(本の中にでてるのかな?)
- ◎ 作品紹介もゲームの紹介も楽しくよかったです。特にゲームの方は、紹介された時におっしゃっておられたように、上手に走れない子や、ボディーイメージが十分でない子、動作の遅い子など、いろんな子たちが一緒に遊んだり活動したりするのに、とても役に立ちそうです。玉入れもとても楽しそうで一目で勝敗が分かるのも助かります。2学期からさっそくためしてみます。ありがとうございました。
- ◎ 楽しかったです。動きの少ない子や理解のしにくい子でも参加できるゲーム→みんながよく知っているゲームでも工夫次第でいろんな子が参加できるものになる、というのがとても新鮮でした。先生方の長い実践に裏付けられた技というか、子どもの実態に応じた工夫がすばらしいと思いました。

午後の部 教材の作成、実際に作ってみて…

- ◎ ひさびさに工作をして自分の手先が思うように動かず、うまく作れない生徒の気持ちに気づくことができたと思います。
- ◎ 初めの紹介のときより、実際自分で作ってみるととてもおもしろいです。子どもたちも喜ぶと思います。こんな簡単な作りでできるなんてスゴイ！！と思います。
- ◎ 教え方も丁寧で子どもの視点に立って下さっていたので安心して作成できました。わからない所は親切に教えて下さってありがたかったです。

(かなコロリン)

- ◎ 外側の本体を貼りつけるのは苦心しましたが、出来たカードが上手くひっくり返って出てきたので良かったです。
- ◎ 微妙なカーブが難しかったです、50音のカードも用意されていて学校で使ってみようと思いました。

(カレンダーの歌)

- ◎ 持ち物に両面テープがなかったため、かなコロリンのテープを使ったらなくなってしまいました。歌の楽譜もあるとなおよかった、と思います。でも教材はかわいいです。
- ◎ 画用紙にカラーコピーは難しいですか。もし可能なら絵を左右半分ずつにして、(ex 1月左と12月右、1月右と12月左、2月の左と11月右などで)両面コピーして半分に折って製本できないでしょうか。テープの貼り合わせが難しかったので。
- ◎ 季節も感じられ、歌を通して言葉等も多くのことが学べる教材だと思いました。クラスの子の喜ぶ顔が目にかびます。
- ◎ 絵をすべてコピーして下さっているのに感謝。絵を描けない者にとってはありがたいことです。

(反対ことばパタパタ)

- ◎ 初めははる場所などがややこしいと思いましたが、できあがり、絵を入れると変わるのがおもしろかったです。中に入れるカードを作って工夫したいと思いました。
- ◎ 2つだけでなく、4つくらい連なったものが作りたかった。
- ◎ 4枚パタパタ…私たちが制作のどこでつまづくかどのようにしたら分かりやすいか(シールなど)工夫して考えて下さる姿勢に支援教育の原点を見せてもらったような気がします

(数えエイド&タイマー)

- ◎ これだけの人数だと難しいとは思いますが、基板のハンダ付けからチャレンジしてみたいです。おもちゃの設計図を見て作ろうと思うのですが回路がよく分からないのでいつも断念しています。教えて頂けると嬉しいです。
- ◎ デジタル表示のできる教材を自分で作れるのか?と不安でしたが99%完成したものを

用意していただけて良かったです。数えエイドの工夫が子ども達に楽しめると感じています。

- ◎ 数唱の苦手な子、集中出来ない子、いろいろな子に使える教具が作れて良かったです。
- ◎ 教材の絵がどれも魅力的でみんな欲しくなりました。応用できるようにPCを活用すること、絵本なども教えていただけて良かったです。

(ぱたぱた)

- ◎ 以前も「ぞうくんのおさんぼ」のパタパタを作ったのですが……よく分からないままでしたので、今回は「パタパタを習得するぞー！！」とやる気満々で参加させてもらいました。完成に超満足です。ありがとうございます。クリスマス会で使います！！

実技研修会の運営などについて

- ◎ 暑い中、私達のためにきめ細やかな準備をしていただき有難う御座いました。一から自分一人で作るというのはとても大変な事です。ここまで準備していただいて良い教材を作る事ができ嬉しいです。以前作らせてもらったブラックボックスたいへん重宝しています。〈用意するもの〉どれだけの量が必要なのかも書いておいてほしかったです。
- ◎ 毎年この実技研修会を楽しみにしています。実際に作った教材がとても役に立っています。紙テープの出てくるくす玉は誕生会で誕生日の子がひっぱれることも楽しみな出し物になり、やめられなくなっています。今年入学した1年生には、かなコロリンが活躍しました。興味を持って絵をてがかりに文字を想起しています。数字の歌は朝の会ですることが多いですが、とても不思議なので、みんなの視線が集まっています。先生方、これからも身体に気をつけられ、子どもの目線に立った教材を工夫し是非教えて下さい。教材材料を分けていただきたいです。先生方への連絡先等が分かればうれしいです。
- ◎ 席が後ろの方で説明が聞こえにくく、やっとできたら次に進んでいくという感じで、少しあせりました。
- ◎ 参加会場で名札があると他校の方と交流になるきっかけになっていいと思います。

こんな研修を受けてみたい など

- ◎ SSTやエンカウンター具体的な指導法。
- ◎ 支援に入らないボーダー（境界線）児童について学びたいです。
- ◎ 今回の様に、なかなか本や現場の中だけでは学べない具体的なノウハウを研修できるような場が有難いです。又「手遊び歌」や子ども達の注目するようなダンス等ありましたら是非お願いしたいです。今回は本当に有難うございました。
- ◎ 支援学級の実践について交流したいです。時間割、とりくみ、あゆみ、交流 etc…自分でやってる部分があるので、共有できる場があると大変嬉しいです。

- ◎ 以前聞かせて頂いた作業療法の先生（お名前は忘れてしまいましたが）の子どものとらえ方の話がとても良かったので是非もう一度して頂けたらと思います
- ◎ 支援学校のものに限らず通常学級や支援学級に在籍する児童に向けた教材やアイデア等を紹介して頂けたら…と思いました。（今回の研修から応用できるものもいくつかありましたが）
- ◎ 尿漏れ、失禁の児童がいますが、タイマーの応用で楽しくトイレタイムができればなと思います。
- ◎ 教材の紹介を続けてして頂けると、自分も楽しく、すぐ使えてありがたいです。他に支援学級に入級はしていないが、援助の必要な子ども達への対応（リソースルーム）について、すぐに始められることを教えて頂けるとありがたいです。

最後に…

参加申し込みについて、今までFAXによる受付もしておりましたが、今後は、インターネットのHPからの受付のみとしていきたい、という事務局の考えに対し、多くのご意見をいただきました。ご理解いただける方が少なくなかったのですが、以下のように、FAXがいい、という方のご意見もありました。ご意見を参考にして、今後、よりよい方法と会の運営を考えていきたいと思います。

- ◎ 申込みはFAXでさせて頂きました。コンピューターを使うことにそれほど抵抗はないのですが、やはりFAXが手軽に申し込めるように思いました。象の会の先生方、運営の先生方が工夫して下さったおかげで有意義な、あっという間の1日でした。ありがとうございました。持ち物は、さし・カッティングシートは書いてあれば準備出来たと思います。
 - 前述のように、準備物は事前にできるだけ適切にお知らせできるように気をつけます。今後は、必要に応じて、HPの内容を更新して細かくお伝えできるようにすることを考えたいと思います。
- ◎ 申込みはFAX処理が大変とのことでしたが、FAX申込みの方が安心なのは…？と思います。メールで申し込みましたが第3希望まで書いて結局どの講座に決まったのか分からなかったのが少し不安でした。FAX、メールの分担をしてはいかがかと思えます。
 - HPから申し込まれた方には、自動送信で「受理しました」とお送りしています。定員を超えた、など事情がある場合、どの方法で申し込まれた方に対しても、数日以内に連絡さしあげました。
 - （参加状況は、HPに記載しました）
- ◎ FAXとE mailがあればFAX。理由は職場からE mailで申し込んだ場合、送信が学校（職場）のアドレスになり、その次何かの返信をいただく場合に都合がわるい。
 - このような場合、通信欄に返信等の連絡先をご記入ください。

2010年度 行事部主催 夏の施設見学会報告《かんでんエルハート》

平成22年8月25日(水)大阪府支援教育研究会は、例年恒例の支援施設見学会で、住之江公園にある、かんでんエルハート(重度障がい者多数雇用事業所)を見学しました。75名の見学希望者がありましたが、施設の関係で40名に制限させていただきました。ここでは、たくさんの障がいのある方が主役になって働いておられる様子を見ることができました。障がいのある方がどのような事ができるかを考えて仕事をつくり、働きやすいように様々な配慮がなされていることもよくわかりました。支援教育の担当者として、大変多く学ばせていただきました。以下に見学会でいただいた素敵な資料を紹介します。また、参与の戸田様は自ら障がいのある子どもさんを育てる思いを、「親の10ヵ条」にし、話をして下さいました。これも御好意で掲載させていただきます。

～「障がい者の自立と就労を進めるためには」(株)かんでんエルハートの取り組みから～

かんでんエルハート(重度障がい者多数雇用事業所)

参与 戸田 幸彦

<ねらい>

○障がい者も皆(健常者)と同じように社会に出て働いて生活したいと願っている。

○障がい者雇用は行政、民間企業の社会的責務である。

○障がい者が働きやすい、住みやすい社会は皆(健常者)も働きやすく、住みやすいやさしい社会になる。

1. 障がい者とは(大変な不自由をもって生きている人)

- ・身体障がい者…身体障がい者手帳(1から7級)
- ・知的障がい者…療育手帳(A, B1, B2)
- ・精神障がい者…精神障がい者保健福祉手帳(1～3級)

(発達障がい者…学習障がい(LD)、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD)

2. 障がい者も自立して働く社会があたり前の社会(ノーマライゼーションの推進)

- ・誰でも無限の可能性を秘めている
- ・生かされる日々でなく自分(の意志)で生きる日々を
- ・一般(企業)就労と福祉就労



*働いておられる障がい者の方が仕事内容を説明して下さいました。

3. 企業には障がい者の雇用義務がある

雇用の対象は

- ・雇用率 (1. 8%)、除外率 (0~80%)、雇用納付 (5 万円/人/月)、助成金の制度
- ・雇用形態は (企業内、特例子会社、派遣、パート、在宅)

□障がい者の雇用状況報告 (H21. 6. 1 現在 1. 63%)

○障がい者が企業で働くために

- ・「仕事に人を」でなく「人に仕事を」(障がい者は何ができるか)
- ・働く意欲

4. 重度障がい者が多数働いている職場とは

(株) かねでんエルハートの DVD「拓く (ひらく)」【上映済】

5. 企業で働くために必要なことは

- ・自主通勤 ・ある程度の身辺自立
- ・体力 ・働く意欲 ・(職業能力)

*作っておられる品物を販売しておられます。

6. 企業で働くために～学校、福祉施設、家庭で連携して育成してほしいことは～

1) 社会的自立と意欲を育てる

- ①自分のことは自分でできる (身辺自立) 自分が主体的に生きる (できないことはサポートも可)
- ②善悪の判断、他人に迷惑をかけない
- ③待つこと、我慢すること、根気を育てる 仕事は単純、定型、くり返し作業が多い
- ④可能性を信じて、あきらめない
興味あるものを伸ばす できることを伸ばす (できないこと強制しない)
どこかに良い所ある 病的なものでも教育・成長と共に良くなる例ある

2) 体力

[方策]

- ①自分のことは自分でやらせる (基本的生活習慣) 自分でやらないといけないと思込ませる
(あいさつ、親の手伝いなど)
- ②やって見せ、言い聞かせて、自分でやらせてみる 継続して根気よく教え込む
失敗は成功のもと (あれ・これはダメ、図解して)
- ③しかる、ほめるのくり返しで育てる (怒るとは違う) しかる時は小さく、ほめる時はオーバーに
- ④達成感、充実感、満足感、存在感、使命感を味わわせる
やった、できたという喜び 他人に認められるうれしさ
- ⑤努力したらできる可能性のある目標を積み重ねていく

7. かねでんエルハートは障がい者に働く喜びを与え、育てる

- ・皆な同じ人間の集団
- ・主人公は障がい者 (自分がやらないといけないと思込ませる)
- ・自覚をもたせる (名刺、背広、年令相応の対応など)



- ・仲間と一緒に
- ・適度な緊張感ある職場（朝終礼）
- ・給料をもらう自覚（欲望を満たせる）
- ・夢を与え、報いる（海外旅行）
- ・働くばかりでなく、遊びをとり入れる（誕生会など）
- ・人に認められ、人に社会に役立っている自覚（花の販売、メールサービス）

8. 共に働くスタッフ（支援者）に求めているもの

受容と共感 心を通い合えているか（目線） 特性、個性を理解し、教え込む
強くて、たくましくて、優しく、慈悲に満ちあふれているか

- ・ケジメをつけ、役者を演じる（しかるとき、ほめるとき、遊ぶとき、優しくするとき）
- ・公平に扱う、エコヒキしない
- ・不満は小さいうちに摘みとる
- ・直接教えている人ほど叱る、ほめるの世界を
- ・時に体力も必要
- ・日常きめこまかい生活指導を（家庭と連携）（解っているだろうはダメ）
あいさつ、手洗、耐える、我慢する、節約する 恥ずかしさを知らせる

9. 障がい者とその家族に理解を深めていただくために

- ・重度重複障がいの子と共に生きる

親の10カ条

戸田幸彦

（信念）皆 無限の可能性を秘めている

1. 親ガメこけたら 皆こける（しっかり生きて）
2. 親の愛情（父母）まことに大事（父も協力して）
3. 親の限界を自覚しよう（孫をかわいがるようではダメ）
4. 親としてのケジメ（役者を演じる）をつける
しかる時 遊ぶ時（視線を合わす）
ほめる時 優しくする時（困っているなど）
5. 親の思うようにはならぬ 他人の子どもとの比較は不幸のはじまり
6. 必ず解っている、云わないのはダメ（10云うと1つは理解している）
7. 年令相応の対応を、子ども扱いしない（その年令の能力の一部はある）
8. 生まれた時（障がい解った時）のショックを乗り越えれば、
その後のすべての困難はいとも簡単に乗り越えられる
9. 親なきあとの取り越し苦労はやめよう 誰かが面倒をみってくれる
そのとき本人が困らないように（自分のことができる）
10. 幸せを運ぶ子、神仏の使者である 恥でない、自慢の子である

～参加者の感想～

- ・ 支援教育に携わる者として、見聞が広がりました。一般の作業所と違い、かなりプロフェッショナルな職場であるように感じました。「ともに生きる」というイメージはこれかとインパクトを受けました。障がい者、健常者とも差をつけずに働く、大事なことは、「どれだけいい仕事ができるか」に尽きるということですね。
- ・ 障がいを持った人たちがイキイキと働いておられる様子に感動しました。ただ、新規採用になるとかなり厳しいというお話を聞き、障がいを持つ子どもたちにはまだまだ難しいと思いました。今後、ますますこのようなすばらしい会社が増えていってほしいと心から願います。
- ・ 会社設立の理念、思い、施設設備すべてが素晴らしいと思いました。不自由さのある人たちが働けるこのような会社が増えて、生き生きと働ける、生きていけるようになることを願って障がいを持つ子どもたちを育てていかなければと思います。戸田さんのお話が心にしみました。教育に携わる者や保護者にも聞いてもらいたいと思いました。
- ・ DVD での涼子さんの大きな夢、その通りだと感銘を受けました。バリアフリーの施設や働いている方々と触れ合えてよかったです。戸田さんのお話も勉強になりました。障がいを持つ子どもほど多くの教育を受けないといけないという言葉はその通りですね。
- ・ DVD の中で森さんのお父さんが涙ながらに「こういう施設が広まってほしい」とおっしゃっていたこと、私も心の中で本当にそうだと実感しました。エルハートさんのような会社で自分に自信を持ち、自立して生活していける方々がもっともっと増えていってほしいと願いました。そして、そのために私たち教師がすべきことは「意欲を育てること」これを教えていただき、心の中にずっと光が見えてきた気がしました。目の前の子どもたち一人ひとりを大切に子どもの無限の可能性を広げていけるように頑張っていきたいと心から思いました。
- ・ 第一印象は、とてもすばらしい施設だと思いました。障がいがあるとかないではなく、人間としてすごしやすい環境だと実感しました。生徒の「やる気」をどう育てていくか、また、しっかり考えていきたいと思いました。

以上、今年度の行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。かんでんエルハートの方々、当日はお忙しい中大支援研施設見学研修のためにお時間をさいいただき、本当に有り難うございました。末尾ながらお礼申し上げます。

大阪府支援教育研究会 行事部

平成22年11月15日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 左 近 洋 二

冬 季 研 修 会 の ご 案 内 (二次案内)

晩秋の候、先生方もご活躍のことと存じます。

9月に一次案内を出しました大阪府支援教育研修会研修部主催による冬季研修会を以下の要項で実施いたします。ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

記

- ① 日 時 平成23年(2011年) 1月22日(土)
午前10時30分～午後4時(10時 受付開始)
- ② 場 所 たかつガーデン
大阪市天王寺区東高津町7-11 Tel (06)6768-3911
(近鉄 大阪線・奈良線 大阪上本町駅 北東300m)
(地下鉄谷町線・千日前線 谷町九丁目駅 北東700m)
- ③ 内 容 午前3つ、午後4つの講座を開きます。内容は別紙をご参照ください。
午前・午後各1講座に参加していただくことを基本としますが、どちらか1つだけの講座の参加でもよろしいです。
会場の定員を超え、お断りする場合には、ご連絡いたします。

午前の部 午前10時30分～12時30分

- (A) 自閉症の理解と支援のあり方 (室田澄江氏)
(B) 発達障がいの子どものつつむクラスづくり (松久眞実氏)
(C) 子どもの性を考える (大橋一予氏、中野智恵氏、中村昭代氏)

午後の部 午後2時～4時

- (D) 高次脳機能障がいについて (栗村由喜江氏、西野朋子氏)
(E) スクールカウンセラーから見た支援教育 (長田道氏)
(F) 発達障がいのある人への「安心と自尊心」にもとづく学習支援 (井川百々代氏)
(G) バーチャルAD/HD (熊野健司氏)

④ 申し込み方法

大支援研のHPから、申し込みお願いします。

「大支援研」で、検索してください。

<http://daishienken.visithp.com/annai/touki2010mousi.html>

氏名、所属校、参加希望講座、連絡先を必ず明記してください。

参加者多数などの理由により、ご希望に添えない場合のみ、連絡させていただきます。
連絡は、申し込みされたアドレスに送らせていただきます。

- ☆ もし、別の連絡先にお伝えした方が良い場合には、「通信欄」に、
連絡先のメールアドレスまたはFAX・電話番号などお書き下さい。
- ☆ 研修内容についてのご質問やご要望がありましたら、「通信欄」に
ご記入ください。
- ☆ それぞれの講座内容についての具体的な質問や、講師の方に相談
されたい事例がありましたら、「通信欄」にご記入ください。講師の
方にお知らせします。なお、具体的な事例について書かれる場合に
は、個人情報にご配慮ください。
- ☆ バーチャルAD/HDの体験を希望される場合も、「通信欄」に御記
入下さい。

⑤ 問い合わせ先

| | | |
|------------|-----------|--------------|
| 大阪府支援教育研究会 | 書記（研修部担当） | 佐藤正幸 |
| 摂津市立第四中学校 | TEL | 06-6349-6181 |
| | FAX | 06-6349-6184 |

大阪府支援教育研究会 2010年度冬季研修会 講座の内容

午前（A）**自閉症の理解と支援のあり方**

室田 澄江 氏

（大阪府教育センター 支援教育研究室）

自閉症は、「3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ ②言葉の発達の遅れ ③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がい」です。

子どもの気になる行動、例えば、小学校高学年の児童が「女性の先生に抱きつく」という行動を考えた場合、「愛着の発達」ととらえる人、「問題となる行動」ととらえる人で意見は分かれます。結果的に、「ダメよ」という人には抱きつかなくなり、その行動を許してくれる人に集中することがあります。子どもがどうして気になる行動をしているのかをその行動だけでなく、行動の前後の様子からもとらえ、子どもが望ましい行動をするためにどのような支援が必要かを考え、教員間で一貫した対応をすることが大切です。自閉症の特性を理解した一貫した対応が子どもの自立につながることをお話していただきます。

午前（B）**発達障がいの子どもをつつむクラスづくり**

～崩れないクラスを特別支援教育の視点で再構築する～

松久 眞実 氏（プール学院大学 特任講師）

「特別支援教育の必要性についての理解は急速に進んできていますが、周りを見渡してみますと教師達の多くは疲労困憊しています。実際、具体的に何をどうしたらいいのかが見えず苦戦しています。秩序のある落ち着いたクラスを作ることは、年々困難を極めています。崩れないクラスを作るための「効率良く大きな効果のある」「誰でも手軽に無理なく」取り組める方法を模索するお話をしていただきます。

午前（C）**子どもの性を考える**

大橋 一予 氏

（大阪自閉症協会）

中村 昭代 氏、中野 智恵 氏（大阪手をつなぐ育成会）

性教育は性の健康教育といってもいいでしょう。母から誕生してこの世に生を受けたときからすでに生きる為の性の活動は始まっています。

自閉症や知的障がいの子どものお母さんや当事者の支援をしている大阪手をつなぐ育成会の相談支援専門員の方がお話ししてくださいます。子ども達の日々の指導をどうすれば良いのかを一緒に考えてみたいと思います。

午後（D）**高次脳機能障がいについて**

栗村 由喜江 氏、西野 朋子氏

（大阪府障がい者自立相談支援センター ケースワーカー）

事故や病気の後で、行動や感情・記憶力や注意力が変化し、職場や学校に戻ってから仕事や勉強がうまくいかない・・・ そんな人が身近にいたり、話を聞かれたりしたことがないでしょうか。これは高次脳機能障がいによるものかも知れません。外見上分かりにくいいため周囲の理解を得るのが難しい障がいです。

講師の方は高次脳機能障がい支援普及事業として主に成人の方への支援に取り組まれておられますが、小中学生にも支援の必要な場合があります。今回の研修では、高次脳機能障がいについての基本的理解・診断などについてお話しいただくとともに、児童生徒への支援について参加者とともに考えます。あわせて講師の方の所属されておられる障がい者医療・リハビリセンターの概要などについてもご紹介いただけます。

午後（E） **スクールカウンセラーから見た支援教育**

長田 道 氏

（大阪府スクールカウンセラー）

多くの学校にスクールカウンセラー（SC）が配置され、相談・支援活動が活発にすすめられるようになってきました。今回の講座では、個別の事例での連携だけではなく、支援教育を進める中で SC との連携をどうすすめていくか、さまざまな視点から参加された方と一緒に考えていけることをめざします。講師の方からは、SC の仕事内容や目標とされておられること・思いなどについて具体的な事例を通して紹介していただきます。SSW との連携も含め、これからの支援教育の場における連携のあり方について考えていきます。

午後（F） **発達障がいのある人への「安心と自尊心」にもとづく学習支援**

（滋賀大学キッズカレッジの取り組み）

井川 百々代 氏（滋賀大学キッズカレッジ大阪教室）

滋賀大学キッズカレッジ(SKC)は学習上の特別な教育的ニーズを有する子どもたちを支援するための専門的 NPO 法人です。講師の方は、小中学校での支援教育の経験を活かし、大阪相談室&学習室で学習障がい(LD)の相談・指導を行っておられます。SKC の基本は、学習障がいのある人(児)が主体的に読み書き計算の力を獲得する理論と実践方法にあるとのことです。この講座では、子どもの困難さの理解とその支援の実態、とりわけ読み書き障がいについて話していただきます。

午後（G） **バーチャルAD/HD**

～AD/HDのある子どもの世界を疑似体験～

熊野 健司 氏（ヤンセンファーマ株式会社 医療政策統括部）

「バーチャル AD/HD」は、「見えにくい障がい」とも言われてきた AD/HD の病態や症状、当事者である子どもたちの心情を理解するためのツールとして制作されました。周囲の人間が、当事者の思いのほどを理解し、適切な支援へとつなげていくことを目的として、医療の専門家による監修に加え、当事者の声なども参考にして制作されたこの装置について発表していただきます。

下記の要領でバーチャル体験を実施します。今回の研修では、講師の方の話に加え、体験された方から意見を出していただきたく思います。体験人数に限りがあることご理解ください。

バーチャル体験 昼休みの12時50分から午後2時までの間（70分間）

- ◎ 1人7分で2台の機械がありますので、合計20人の方が体験可能です。
- ◎ 体験を希望される方は「通信欄」に記入してください。先着20人とします。
- ◎ できるだけ広範囲の方に体験していただくため1校につき1名のみのお応募としてください。昨年体験された方はご遠慮ください。
- ◎ 体験可能かどうかはメールでお伝えします。メールの返信以外での連絡を希望される方は連絡先をご記入ください。体験の順番はこちらで抽選させていただきます。当日午前中にお知らせします。

第32回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

大阪ムーブメント教育研究会（JAMET 大阪支部）
代 表 金 川 朋 子

ムーブメント教育は、1977年に小林芳文博士（和光大学教授）によって、初めてわが国に紹介されました。『人間尊重』の教育を基本理念として、子どもの自主性・自発性を重視し、究極的には子どもの『健康と幸福感の達成』をめざしています。この素晴らしいムーブメント教育について、ともに勉強し、日々の教育実践に反映させ、楽しいムーブメント教育を広げていきたいと考え、2005年10月から大阪でも研究会をスタートしました。研究会の活動を通して、ムーブメント教育が大阪を中心として西日本でも大きく広がり仲間がつながり、今年度も、平成22年8月28日（土）～29日（日）に夏期セミナー第5回大阪大会がおこなわれ、ますますムーブメントの仲間が広がってきています。

さて、今回はムーブメント教育・療法の第一人者である小林芳文氏をお招きし、直接ご指導をいただきます。貴重な機会となしますので、ムーブメント教育に興味をもたれている方、もっと勉強してみたいと思われる方、ぜひ参加してください。また、まだムーブメント教育を知らない方々も仲間でおられたらぜひお誘いください。

☆ 日 時 :平成22年12月18日(土) 13:30 ～ 16:30

☆ 会 場 :大阪教育大学 附属特別支援学校
(大阪市営地下鉄谷町線 喜連瓜破駅下車 徒歩5分)

☆ 参加費 :2,000円 (当日 徴収いたします)

☆ 内 容 : ムーブメント教育・療法を学ぼう!

☆ 申し込み先及び方法

:JAMET 大阪支部 FAX 072-367-0713

:E-MAIL kogorou123@nifty.com

:下記の申込書にご記入の上FAX、もしくはメールでお申し込みください。



《第27回 研究会の様子》

☆大阪ムーブメント教育研究会ホームページ <http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

☆ その他 ・動きやすい服装でご参加ください。

・問い合わせ等 JAMET 大阪支部 高井照隆 090-9995-5223

☆ ムーブメント教育 研修会(12月18日) 参加申し込み

| ご氏名(ふりがな) | 所 属 名 | 連 絡 先 |
|-----------|-------|---------|
| | | TEL・FAX |
| | | E-MAIL |

* 複数枚必要な場合は、おそれいりますが、コピーをしてお申し込みください。